

## 解答例または出題意図

### 設問Ⅰ

教師が学習指導要領において定めた資質・能力を児童生徒に確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。本設問は、学習指導要領の改訂を踏まえた観点別学習状況の評価の観点について、その基本を問うものである。

①と②では、特定の教科における一時間の具体的な授業を想定し、授業の目標に照らしてその実現状況を、重点を置く評価の観点と評価規準を定めることができるかを見るものである。

③では、指導と評価の一体化を意識しつつ、教師が指導のねらいに応じた学習活動をデザインするとともに、一人一人の児童生徒の学習状況を分析的に評価する方法や配慮事項を工夫することができるかを見るものである。

④では、例えば、思考・判断・表現の評価では、具体的な評価方法として、論述やレポート等の作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど、重点をおく観点別評価の方法として様々な工夫を考えることができるかどうかを見るものである。

### 設問Ⅱ

学校教育における ICT の活用はこれから避けて通ることができない課題であり、また大きな可能性が考えられる。

政府はインターネットに接続した端末を学校で一人一台使えるように整備しようとしているが、機器が整備されたとしても使用法をよく考えていなければ宝の持ち腐れになってしまう。また、スマートフォンなどは持ち運びにも便利ではあるが諸刃の剣としての面も持つ。

問1 調べ学習としてインターネットを使うのがベーシックではあるが、映像や音声など、実際に本物が観られ自分と比較ができるので、授業だけでなく部活動でも活用できる。資料からコミュニケーションとしての活用も多いので、インターネットを通じて顔を見ながら会話をすることにも抵抗が少ないと思われる。そのため外国語のみならずその他の教科においても他県や他国の同世代と意見交換が授業中にできる可能性がある。

また、質問、指示や資料等が直接児童・生徒に送られ、教室で声を出しにくい児童・生徒もインターネットを使って教師や仲間同士とコミュニケーションがとれ、密度の濃い授業の可能性もある。新しいアプリなど、若者ならではの使い方にも注目したい。

問2 資料からも生徒指導上、児童・生徒の生活にインターネットは負の影響も与えているのは間違いない。資料の読み取りからの「利用時間」や「使用目的」だけを問題とするのではなく、「ネットいじめ」、「犯罪被害」、「盗難」の問題にも言及してほしい。

対策としては「情報モラル教育」があるが、押し付けではなく「児童・生徒にルールを作らせる」、「保護者の理解を得る」等など、教員になった場合に必要問題としてその考えを問う。